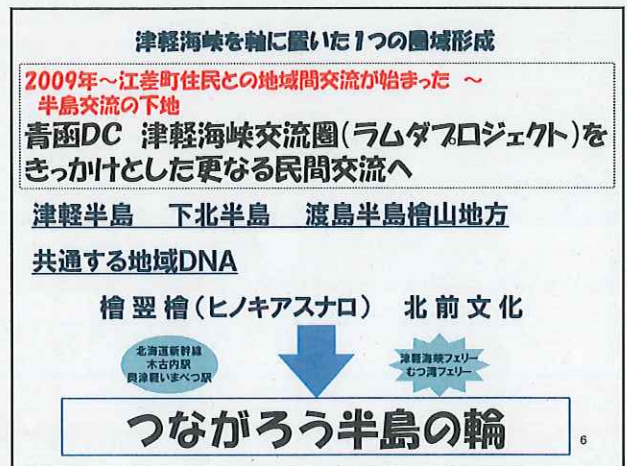


# H30情報交換会①

NPO法人かなぎ元気倶楽部



2014.11 下北風間浦村

2015.9 北海道江差町

11.8 土

11.9 日

26 (土) 27 (日)

2015年9月

檜 翠 檜  
ひのきあすなろ  
さすなごうかい  
絆航海

フォーラム「ヒバ」(武蔵野) 武のヒバ(山)と船の会

2016.10  
青森県五所川原市  
旧金木町  
旧市浦村

津軽海峡ヒバサミット2016 in 津軽

扁柏の恵みに  
育まれたまち

10/1(土) 10/2(日)

13:30~14:00  
14:00~14:30

15:00~

2016.10.1(土)~2(日)  
津軽海峡ヒバサミット 2016  
in 津軽  
コンセプト

1. 奥津軽の森に眠る近代化遺産  
国有林森林鉄道を知る  
国内1,100路線 のべ8,000k  
旧津軽森林鉄道 日本初 国内最長路線

2. エコツーリズムの世界的な流れを知る  
日本三大美林「青森ひば」の森と旧津軽  
森林鉄道の軌道跡を歩く「奥津軽トレイル」津軽半島 8セクション のべ117k  
国内屈指のロングトレイル

3. ひばの森とツーリズムの連携を考える  
津軽半島・下北半島・渡島半島檜山地方共  
通の恵みは「ヒノキアスナロ」(ひば)  
北前船交易と上方文化の名残を共有  
三半島の住民交流を深める

津軽海峡ヒバサミット完結  
下北風間浦→檜山江差→津軽金木

2016.4 江差追分 青森県津軽支部設立  
(青森県初)

2017年  
全国大会初出場

江差追分定期実演会

平成三十年度 上半期

6月 3日(日)  
7月 15日(日)  
8月 26日(日)  
10月 7日(日)

一日2回  
① 13:20~13:50  
② 14:20~14:50

実演会に限り  
入場無料

津軽三味線会館 0173-54-1616



福浦の歌舞伎  
 福浦の歌舞伎  
 4月10日(土) 19時開演  
 会場/江差道分合館  
 19時30分開演  
 18時00分開演  
 19時00分終了予定

1 福浦の歌舞伎「福浦の歌舞伎」  
 2 福浦の歌舞伎「福浦の歌舞伎」  
 3 福浦の歌舞伎「福浦の歌舞伎」  
 4 福浦の歌舞伎「福浦の歌舞伎」  
 5 福浦の歌舞伎「福浦の歌舞伎」

TEL. 0175-38-2111

第二回 津軽海峡交流圏 郷土芸能祭  
 4月10日(土) 19時開演  
 会場/江差道分合館  
 19時30分開演  
 18時00分開演  
 19時00分終了予定

TEL. 0175-38-2111

地域間交流と全国PR

**関係人口** (外から地域を見守り、継続して支援する人) **拡大**  
**地域を元気に!!**  
 「交流人口(観光)以上、定住人口未満」  
 交流を通して愛着が生まれる  
**地域文化・伝統芸能・自然環境・人の魅力**  
 ご当地出身者・転勤族・友達関係  
 住んだことがある、訪れたことがある土地には愛着がある  
 ふるさとは一つだけじゃない  
 年に一度はふるさとへ帰ろう

17

喫煙率日本一 + 飲酒率日本一 + 食塩消費量日本一  
**短命県日本一**  
**= 死亡率日本一!**  
**がん死亡率日本一**  
**歩かない県民日本一**

18

青森ひばの森と旧津軽森林鉄道の記憶  
「奥津軽トレイル」



ゆったり あさぐべ 津軽半島



■ 奥津軽トレイル×ヘルスツーリズムのビジネス化へ



健康プログラム開発

健康食メニュー開発

ヘルスツーリズム人材育成

ヘルスツーリズムしくみ構築

- プログラムイメージ
- ①健康チェック@ウォーキング (森林浴)
  - ②ストレッチ@クナイ療法
  - ③換気外気浴@ウォーキング (森林浴)
  - ④健康弁当&音楽療法
  - ⑤健康チェック

- 期待される効果
- 滞在交流型ヘルスツーリズム商品化による経済効果
  - 地域及び来訪者の健康増進
  - インバウンド対応できるプログラムの推進
  - ヘルスツーリズム農泊プログラムの推進
  - ヘルスツーリズムによる津軽海峡交流圏の活性化へ
  - 健康をテーマにした青森ひば商品をラインナップ化
  - 雇用創出・コミュニティ活性化・医療費抑制へ

■ DAZAI健康トレイル 今年度の取り組み

受付  
健康チェック!  
@斜陽館

太宰治記念館「斜陽館」

終了  
血圧・歩数  
チェック  
@斜陽館

林相改善定 血圧 心拍 ロコモチェック

健康講話  
@斜陽館

弘前大学医学部特任教授 中尾氏による健康講話

音療療法  
ホーンヘル合奏  
寛政の里  
短朋大学

健康ウォーク  
森林浴  
水附敷

百林快道通掛・太宰のさひら・冷泉でのクナイ療法、行々の換気外気浴などを実施

木育に取り組む檜山振興局



歩育・食育の奥津軽トレイル

スナック一食生野菜摂取率の向上

21	15.7%
11	8.3%
20%	
20	15.7%
21	15.7%
50%	6.5%
C 50~65%	
F 10~30%	



ありがとうございました。

# H30情報交換会②

木古内町

## 北海道新幹線沿線自治体向け 特別運賃を活用した住民向けツアー



木古内町

### 木古内町・中泊町・五所川原市



HOKKAIDO KIKUNAI TOWN

### 北海道南西部エリア

《名称》  
新幹線木古内駅活用推進協議会

《目的》  
○北海道新幹線を核とした近隣自治体との広域観光ルートの形成  
○各地の特産品等の情報を全国に発信することによる、交流人口の拡大



《概要》

- 設置年月日  
平成22年5月20日
- 構成団体  
渡島西部4町(木古内町(事務局)・知内町・福島町・松前町)、  
檜山南部5町(上ノ国町・江差町・厚沢部町・乙部町・奥尻町)、  
交通事業者(函館バス、ハートランドフェリー、JR北海道)、  
北海道運輸局(函館運輸支局)、北海道(渡島総合振興局、檜山振興局)



HOKKAIDO KIKUNAI TOWN

#### 新幹線木古内駅活用推進協議会の取組

##### 取組① 広域観光プロモーションの展開

札幌や函館のほか、道外では青森、仙台、東京においてプロモーションを実施

##### 取組② 路線バスを活用した周遊観光推進

◆江差・松前周遊フリーバス～千年北海道手形～

- 概要  
9町エリアを巡る路線バスが2日間または3日間乗り放題となるフリーバス  
※江差～奥尻間のフェリーや、木古内～五稜郭の道南いさりび鉄道も特別料金で利用可能



##### 取組③ 観光客入込数減となる冬期の観光促進

◆旬感・千年北海道 冬の江差号・松前号

- 概要  
9町の冬の魅力を探索する日帰りバスツアー  
2月に、「冬の江差号」及び「冬の松前号」の2コースを運行



HOKKAIDO KIKUNAI TOWN

### 青森県津軽半島エリア

《名称》  
奥津軽いまべつ駅・津軽中里駅間バス運行協議会

《目的》  
○北海道新幹線開業を契機とした、東青地域と西北地域の交流推進及び地域活性化



《概要》

- 設置年月日  
平成28年2月12日
- 構成団体  
五所川原市、中泊町、今別町、外ヶ浜町、  
東青地域県民局、西北地域県民局、五所川原警察署、外ヶ浜警察署、  
交通事業者(弘南バス、津軽鉄道)、中泊町行政連絡員協議会  
東北運輸局(青森運輸支局)、青森県



HOKKAIDO KIKUNAI TOWN

**取組** 奥津軽いまべつ駅と津軽中里間を結ぶ  
バス「あらま号」運行

- 概要  
新幹線奥津軽いまべつ駅～津軽中里駅を結ぶバス路線の運賃を半額助成。  
北海道新幹線と接続するダイヤもあり、奥津軽でのイベントや道南への旅行に利用してもらうことで、地域の活性化につなげる。
- 実施期間  
北海道新幹線開業日の平成28年3月26日から運行  
現在は、通年運行実施中
- 助成額  
通常運賃の半額
- 助成券取扱所  
五所川原市、中泊町、外ヶ浜町、今別町、  
津軽鉄道株式会社(津軽五所川原駅、金木駅、津軽中里駅)



- 企画概要  
北海道旅客鉄道株式会社が北海道新幹線開業1周年企画として、釧路総合振興局及び釧路管内全域の自治体向けの特別運賃を設定。  
当該エリアの自治体企画が、住民を対象とした低価格の北海道新幹線乗車体験を実施。
- 設定期間  
平成29年10月～平成30年3月 ※年末年始等、JR北海道が指定する日を除く
- 利用条件  
○団体利用(8名以上)であること。  
○JR北海道が指定する対象列車を使用した日帰り往復行程で、指定席が確保できる場合であること。  
【対象列車】  
上り:はやぶさ26号及びひはやぶさ30号を除く全列車  
下り:はやぶさ1号及びひはやぶさ5号、はやぶさ11号を除く全列車  
○1回あたり最大100名程度とし、設定回数は期間中最大3回までとする。

- 設定価格  
◆A期間・・・平成29年11月1日～12月20日の月曜～木曜(11/2, 22, 23は除く)  
平成30年1月16日～2月28日の月曜～木曜 ※割引率72%  
①木古内～奥津軽いまべつ 往復 大人 2,090円 こども 1,040円  
②木古内～新青森 往復 大人 2,940円 こども 1,460円  
◆B期間・・・A期間以外 ※割引率73%  
①木古内～奥津軽いまべつ 往復 大人 2,120円 こども 1,040円  
②木古内～新青森 往復 大人 2,940円 こども 1,460円
- 自治体の作業  
○参加者の募集、参加者の集約、参加者名簿の作成  
○参加者への入金・集合場所等の案内書面の作成及び送付  
○JRツインクルプラザ函館支店への入金  
○催行日当日の対応(参加者受付、添乗)
- JR北海道の協力事項  
○乗車日当日の駅等での対応補助(イベント実施対応を含む)  
○長机やハンドマイク等の備品の貸出  
○横断幕等の設置補助

【主催:木古内町】

- 目的  
JR北海道旅客鉄道株式会社の北海道新幹線開業1周年企画「沿線自治体向け特別運賃設定」を活用し、木古内町民に北海道新幹線をもっと身近に感じてもらうとともに、北海道と青森県の相互交流人口の拡大促進のため。
- 概要  
木古内町と、青森県の自治体及び奥津軽いまべつ駅・津軽中里駅間バス協議会が連携し、それぞれの地域を訪問する「日帰りご当地ツアー」を催行
- コース  
○青森駅周辺満喫コース  
○ストーブ列車とご当地グルメで冬の奥津軽巡りコース



氏名	性別	年齢	職業	備考
山田 太郎	男	45	会社員	
山田 花子	女	42	主婦	
山田 次郎	男	15	学生	
山田 美咲	女	12	小学生	
山田 健太	男	10	小学生	
山田 真由	女	8	小学生	
山田 拓海	男	6	小学生	
山田 結衣	女	5	小学生	
山田 悠太	男	4	小学生	
山田 莉子	女	3	小学生	
山田 大輔	男	2	小学生	
山田 小春	女	1	小学生	

- ◆参加者:34名
- ◆添 乗:3名(役場2、観光協会1)
- ◆料 金:大人 4,600円  
小人 2,950円

氏名	性別	年齢	職業	備考
山田 太郎	男	45	会社員	
山田 花子	女	42	主婦	
山田 次郎	男	15	学生	
山田 美咲	女	12	小学生	
山田 健太	男	10	小学生	
山田 真由	女	8	小学生	
山田 拓海	男	6	小学生	
山田 結衣	女	5	小学生	
山田 悠太	男	4	小学生	
山田 莉子	女	3	小学生	
山田 大輔	男	2	小学生	
山田 小春	女	1	小学生	

- ◆参加者:39名
- ◆添 乗:3名(役場2、観光協会1)
- ◆料 金:大人 6,930円  
小人 4,180円

【主催:奥津軽いまべつ駅・津軽中里駅間バス運行協議会】

- 目的  
JR北海道旅客鉄道株式会社の北海道新幹線開業1周年企画「沿線自治体向け特別運賃設定」を活用し、地域住民に北海道新幹線と接続する二次交通等をもっと身近に感じてもらうとともに、北海道と青森県の相互交流人口を拡大させるため。
- 概要  
奥津軽いまべつ駅・津軽中里駅間バス協議会と木古内町が連携し、それぞれの地域を訪問する「日帰りご当地ツアー」を催行
- コース  
北海道新幹線で行く!!  
北海道木古内町伝統神事「寒中みそぎ祭り」見学ツアー







# H30情報交換会③

海と日本PROJECT in 北海道・青森県実行委員会  
(北海道放送・青森テレビ)



## イベント概要の紹介

海と日本PROJECT in 青森県 **ATV 青森テレビ** 営業担当局長兼営業推進部長 櫻田昌幸  
海と日本PROJECT in 北海道 **HBC 北海道放送** テレビ営業局長兼推進部長 藤岡 理

### 海と日本PROJECT とは

#### 海と人と人をつなぐ。

私たちの生活にかかせない海は、今、危機に瀕しています。  
世界の人口が急速に増加を続ける中で、  
海洋生物資源の乱獲。生態系のバランス崩壊。  
海の酸性化。気候変動や自然災害。  
海底資源の開発競争、海洋権益をめぐる争いなど。  
問題は絶えません。  
海のために、私たちができることを考えてみませんか。  
人と人がつながり、海を未来へ引き継いでいきましょう。  
海と日本プロジェクトは、  
日本財団、国土交通省、総合海洋政策本部（日本政府）  
が主催しています。

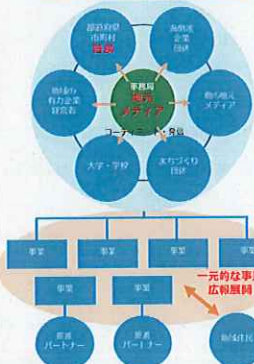
### 海と日本プロジェクト 5つのアクション

プロジェクトにおいて一人ひとりに参加を期待するアクションを5つ設定し、海との接点をつくるきっかけを具体的に提供。アクションに沿った事業を全国規模で展開することで、参加する人々の主体的な海への理解と行動を誘発します。



### 自治体とメディアの連携による取組み

#### 海と日本PROJECT 実行委員会



- 自治体と地方局が主体的に取り組む熱源の創生
- 多様な関係者の巻き込み
- イベントを戦略的に企画・集約
- 一元的な広報展開・発信

#### 全国で展開

##### (基本コンテンツ)

- 各県オリジナル企画の実施
- 各県の知事・市町村長によるメッセージ収集
- 海サポ事業者などのコラボイベントの展開
- イベント取材「H30動画」の放送/発信
- 海のキーパーソンによる「つみのこえ」

### 自治体とメディアの連携による取組み





**Step 1**

①津軽海峡の環境、歴史、文化、資源を学ぶ！

約800年前の縄文時代から、旧暦と春の間に津軽海峡を介して和はる交易が行われていたことが出土品からわかっており、さまざまな物的・人的・文化的交流が行われてきました。また対馬海流・ソマ海流・親潮(干熱海流)という3つの異なる海流が流れ込められた地理的・自然的条件にある津軽海峡は、豊富な水産資源にも恵まれています。津軽海峡で獲れる全魚類資源上位の水産資源が青森・北海道にも多くあるため、全国に誇れる津軽海峡の水産資源を学びます。

講師：青森県庁 中園海氏 氏  
協力：渡部水産部



②津軽海峡で獲れる「魚」を知ろう！

①で学んだ魚を地引網で実際に獲り、津軽海峡(陸奥湾)の豊富な資源を感じてもらいます。また、まき魚を見る・触ることによって魚の身体に感得し、ついでに獲った魚を調理し、自然に手を組んで獲った魚の恵みを学びます。海産物として地引網の中にはゴミも多く入っているという点で、海産物の扱いについても考えたり、アクアスします。

協力：平内町漁業協同組合



**Step 1**

③津軽海峡の恵みを食べて学び！

①、②と津軽海峡で獲れる魚を学び、実際に獲ってきた。その獲れた魚を魚に手供進んでいただきます。津軽海峡で獲れる魚の美味さを感じてもらい、海に対する愛着を深めてもらいます。地引網で獲れた魚だけでなく、津軽海峡の北海道産で獲れる海産物も用意し、青森だけでなく北海道の水産資源についても学んでもらいます。

協力：平内町漁業協同組合



④青函の結びつきについて学び！

1954年(昭和29年)に鉄道船輪として軌道した北陸丸が青函連絡船の始まりです。1988年(昭和63年)まで60年間におよび、青森港と函館港を結び、1億6千万人の乗客と約5万トンの貨物を運びました。津軽海峡で獲れる海産物は食糧だけでなく、観光、教育、青函航路などの海運により、モノ、文化、交流が行われ、海でつながる青森と北海道の結びつきを強めます。

講師：NPO法人おのりみなとクラブ 藤田留氏 氏  
協力：八甲田丸 特定非営利活動法人おのりみなとクラブ



**Step 1**

開始時間	終了時間	所要時間	内容	講師	その他
9:00	9:15	15分	開会・挨拶	青森県庁 中園海氏	入札式参加
9:15	9:45	30分	津軽海峡の環境・歴史・文化・資源について学ぶ	青森県庁 中園海氏	
9:45	10:15	30分	津軽海峡で獲れる「魚」を知ろう	青森県庁 中園海氏	
10:15	10:30	15分	休憩		
10:30	11:20	50分	地引網で獲った魚を調理して食べる	青森県庁 中園海氏	
11:20	11:35	15分	休憩		
11:35	12:20	45分	青函の結びつきについて学ぶ	青森県庁 中園海氏	
12:20	12:35	15分	閉会・挨拶	青森県庁 中園海氏	
12:35	13:00	25分	お別れ	青森県庁 中園海氏	
13:00	14:00	1:00	八甲田丸 乗船	八甲田丸 乗船	
14:00	14:50	50分	八甲田丸 乗船	八甲田丸 乗船	
14:50	15:00	10分	閉会	青森県庁 中園海氏	
15:00	17:00	2:00	お別れ	青森県庁 中園海氏	
17:00			閉会	青森県庁 中園海氏	

**Step 2** 北海道・青森県の代表が参加「津軽海峡 海洋調査」

青森県と北海道の各エリア代表者が参加し、津軽海峡の自然を軌道の船上から体感、約4時間かけて、海洋生物や食料連鎖について学ぶ。また、現在の津軽海峡を取り巻く海洋環境の問題についても体系的に学ぶ。各エリアの調査結果を共有し、海洋調査の結果を踏襲してまとめるワークショップを行う。

1. 帆船「みらい」に乗船し、航海体験！

①エリア調査の発表、共有  
STEP1での学びから、青函の結びつきや地域特有の海洋環境(魚種・文化・歴史等)について青森と北海道の両方で発表し、共有する。  
※STEP1は時間がないため、初めにお互いの成果を発表することで子供達の知識を呼び起こし、さらにこれをSTEP2で船上での体験を通して共有する。

②船上で津軽海峡の風光、歴史などリアルな自然に触れ知識を深める  
これまで津軽海峡の知識を蓄えてきたが、STEP2では実際に津軽海峡で獲れた魚を調理して食べるという体験を通じて、津軽海峡の自然の恵み(津軽海峡の豊かな漁獲)を学ぶ。

③津軽海峡の恵みを体感する  
船上からの約4時間かけて、海洋生物や食料連鎖について体系的に学ぶ。プラクティス採取は青森側・北海道側に場所を移動し、同じ津軽海峡で獲れた魚を調理して食べるという体験を通じて、津軽海峡の自然の恵み(津軽海峡の豊かな漁獲)を学ぶ。

④豊かな海を守る5分5秒を得る  
船上で獲れた魚の調理や食料連鎖の問題について学び、またプラクティス採取にあわせてマイクロプラスチック採取し、海洋環境の現状を学ぶ。  
※STEP1で学んだ「海洋環境」についてさらに深く学ぶための調査




**Step 2** 北海道・青森県の代表が参加「津軽海峡 海洋調査」

青森県と北海道の各エリア代表者が参加し、津軽海峡の自然を軌道の船上から体感、約4時間かけて、海洋生物や食料連鎖について学ぶ。また、現在の津軽海峡を取り巻く海洋環境の問題についても体系的に学ぶ。各エリアの調査結果を共有し、海洋調査の結果を踏襲してまとめるワークショップを行う。

2. まとめワークショップ

①開会  
計を各1チーム4名の3チームに分け、それぞれのチームで調査結果を新聞形式にまとめる(新聞はこちらが事前に用意する)。船上調査時、子供達にはデジタルカメラで撮影をしてもいい、新聞にはその画像も取り入れる。※作業想定時間:15分

②発表  
各チームの各メンバーに、発表者・タイムキーパーなど役割を決めさせよう。発表は行ってもいい。※発表想定時間:30分(各チーム10分)

③表彰  
「優秀内容」「写真」「発表」とそれぞれを表彰項目として表彰する。表彰項目については各チームそれぞれ選手により表彰チームを決定する。※表彰想定時間:10分

3. 参加人数  
小学生 各地から6名×2エリア=12名を推奨

4. 実施スケジュール  
平成30年9月7日(火)~9日(木)




**Step 2** 「津軽海峡 海洋調査」当日スケジュール (案)

1日目 火(火)	2日目 水(水)	3日目 木(木)
青森港→大間港 45マイル(約4時間)	大間港→函館港 20マイル(約4時間)	函館市青少年研修センター「ふるる函館」
※函館港は新幹線で青森入り 新函館港北40635発→青森07:41着	6:00 起床・体操・上陸準備 6:30 ポート上陸 7:00 大間港港長学・マロク船体(予定)	6:00 起床・体操 7:00 朝食・清掃 8:00 ワークショップ 11:30 発表・解散
9:00 奥船式・オリエンテーション 9:30 青森港出発 10:30 エリア調査の発表・共有 11:30 セットセイル(昼食) 12:00 昼食 13:30 パウスプリット遊り・ロープワーク	9:00 船出開始 10:00 後陣開始 10:30 セットセイル(昼食) 11:00 プラクティス採取 12:00 昼食 13:30 テイクインセイル(昼食)	12:00 ジェンボタシー移動 ※函館チーム 12:30 昼飯 解散
16:00 フランクン採取 17:00 テイクインセイル(昼食) 17:30 大間港戻り 18:00 夕食 19:30 船上前体験(サビキ釣り) 20:30 自由時間 22:00 就寝	14:00 函館港入港 14:30 ふかきり調査発表会 15:30 船内清掃 16:00 下船式 16:30 函館市青少年研修センター「ふるる函館」へ 17:00 夕食 高層BBQ 20:00 入浴・自由時間 22:00 就寝	※青森チーム新幹線で帰青 新函館港北12:44発→青森13:50着 車内でお弁当

※荒天で出航不可の場合の代替案は調整中

**Step3 「津軽海峡新聞」を制作し各所に掲示** 19

メディアでの体験と東京での調査結果、2道県で共有した津軽海峡の恵みと未来に向けたアクションについて、新聞社と連携し、特集記事化(北海道10月号、青森県3月号)するほか、新聞記事をポスター化して郡内飲食店や地元飲食店などに掲示します。また、12月号に行われる青函圏フォーラムで発表します。

■掲載紙(総論)  
 北海道新聞 ⇒「道新こども新聞 週刊まなぶん」8/25号  
 青森日報 ⇒ STEP1 記事化 STEP2 ポスター化(青森港または大間漁港で調整中)

■ポスター完成後  
 現在調整中

■東京での個別イベント  
 10/20(土)21(日) 都庁マロニエゾーンで実施のイベントにおいてブース出展  
 パネル展示をする  
 定評ある津軽海峡エリアの観光パートナーの連携商品などの物販も想定

■青函圏フォーラム  
 青函圏交流連携推進会議の実施する「青函圏フォーラム」に  
 調査団員の小学生たちが登壇して調査結果を発表する。  
 ※6月下旬に、情報交換会にてデジタルイベントの企画趣旨を説明予定。  
 フォーラムについては2019年11月～2019年12月内で青森県での実施となる予定。  
 開催日に応じて発表形式を調整します。

「青函圏交流・連携推進会議」  
 一青函圏域の産学官と、交流・連携に取り組む民間の団体など132団体で構成され、  
 青森県と道南地域の交流拡大と連携強化を推進する活動を行っています。

19 10

**ご清聴ありがとうございました**

 <http://aomori.uminohi.jp/>  
 <http://hokkaido.uminohi.jp/>



6ch  
HITTOラジオ、ATV



HBC  
6ch

20 10